



リレーエッセイ

# ハードルを越えて

37

師範 10 段

## 西田 和矢さん (鹿児島市)

学生の頃は部活動で剣道を習い、大分県まで出向き試合に参加したりもしていました。高校2年の時に「頭蓋咽頭腫」の手術を行い、言語障害と右半身麻痺が残ったんです。復学するか悩みましたが、周りの支えや体温調整が難しい私に友人達が扇風機を持って教室を一緒に移動してくれました。高校卒業後は、就労支援施設で軽作業を行っていました。

書道を始めたのは10年程前。母が通っていた書道教室の先生が私の障害のことを聞いて「一緒に連れておいでよ。」と誘われたのがきっかけです。握手をした時に「あなた、字に興味はない？書道をしてみない？」と。麻痺が残っているので、私に書道ができるのか不安でしたが、「それだけの腕力があればやれるよ。」とってもらえたんです。今は条幅を書いています。ただ、最初の頃はこういった姿勢で書いても上手く書けませんでした。自分なりの最良の手段として、紙の上を移動しながら書いていくんですが、麻痺があるので上手く動けず紙が破れてしまうんです。先生に「普通の人の何倍も、書いたものが背の高さになるまで書きなさい。」と言われ、毎日欠かさず書き続け、今では最後の段となる「師範10段」となりました。

全国書写書道大会で「内閣総理大臣賞」を受賞したとの連絡があった時は、母と二人で涙するほど嬉しかったです。「もう書きたくない。」と思うほど書いた上での最高賞受賞でしたので、宝物となりました。周りからの反響も大きく、私を受賞したことが他の障害者や年配の方へ「自分も何かにチャレンジしてみよう。」と励みになったようで嬉しかったです。

今は、月曜日に書道教室を開いています。字が好きな人や「教えてくれない？」とおっしゃる地域の人々とお茶を飲みながら交流を図っていかれたらと思っています。書道の為にピアノを弾いたり、子どもに指導する時に伝わりやすいように言葉のリハビリも行って、日々の努力を欠かさず邁進していきたいと思っています。



条幅とは、馴染みのある半紙の倍の大きさの用紙に書く書道のことです。最初の頃は1枚仕上げするのに1時間20分ほど時間を要していたとのこと。



毎日、朝8時より欠かさず練習に励んでいるので、筆もすぐに傷んでしまうそうです。



### 特定非営利活動法人 障害児フォーラムかごしま

生活支援センター

生活支援センター



## えがお 谷山中央

T891-0141 鹿児島市谷山中央8丁目23番15号  
TEL・FAX (099) 204-0415  
✉ kagoshima\_egao@yahoo.co.jp

## えがおⅡ 桜ヶ丘

T891-0175 鹿児島市桜ヶ丘5丁目16番地9  
TEL・FAX (099) 265-8805  
✉ kagoshima\_egao2@yahoo.co.jp

重症心身障がい児施設

生活支援センターえがお

検索



広告

